



### 3 社会福祉法人等の農業生産を通じた活動の促進に向けた取組


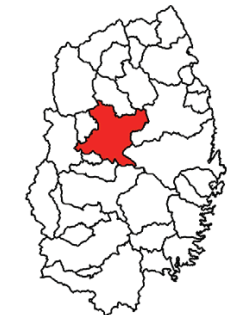
## 社会福祉法人が植物工場を運営（社会福祉法人クピド・フェア）北海道岩見沢市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>クピド・フェアは、「障害のある方に仕事を通じて自立した暮らしを提供する」を目指して事業を運営する社会福祉法人。 （施設利用者数 600名、職員数 300名）</li> <li>電子部品製造に加え、車いす障害者や高齢者ができる農業に特化して、完全人工光型植物工場（全自動栽培装置）を新たに稼働（平成16年1月）。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者4名を雇用して、リーフレタスの播種からパック詰め作業を行う。 （月産約4トン）全国各地の大手スーパー、レストラン、宅配等で販売。</li> <li>同工場のリーフレタスは、雑菌を抑え、赤色LEDの使用により露地栽培に比べ、早く収穫が可能（生育期間：約4週間）。栄養価も高く、味のくせがないと評価 （常温で7～10日間の保存も可能）。</li> <li>地元の道産食材（小麦、じゃがいも、ビート糖）の利用にもこだわり、障害者が製造するじゃがいもの「北海道ラスク」も好評。</li> </ul>	 <p>（異業種・各省連携等）</p>
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完全人工光型植物工場の規模拡大により、障害者の雇用拡大を図る。</li> <li>生産拡大を図るためには、販路の拡大が必要であり、さらなる知名度のアップと都府県向けへの輸送コストの削減が課題。</li> </ul>	<p>（北海道岩見沢市）</p> 

## 障害者が収穫・加工した豆腐等の販売（まめ工房・緑の郷）岩手県盛岡市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（福）岩手更生会緑生園は昭和41年に岩手県内第1号の民間の知的障害者自立支援更生施設（昭和41年開設）として設立され、400名近くが一般就労社会で活躍。</li> <li>平成20年4月に就労継続支援A型事業所「まめ工房・緑の郷」を開始。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣農家等からの農地の賃貸借や農作業の受託で大豆と米を生産し、畑11ha、水田5.8haに作業面積を拡大。</li> <li>農家の農作業受託（草刈り・リンゴの剪定など）。</li> <li>自ら生産した大豆100%で「手作り」・「安心」・「美味しい」を信念に作った豆腐と、膨張剤や添加物を一切使わない「油揚げ」、自ら生産した大豆と米麴を使った味噌、おからを使った惣菜や菓子を販売。</li> </ul>	 <p>（異業種・各省連携等）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>浅沼醤油店</li> </ul> <p>（岩手県盛岡市）</p>
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>周辺に使われていない農地があり賃貸借や農作業の受託により面積を拡大。</li> <li>今後、連作障害を回避するためブロックローテーションを実施。</li> <li>条件の良い農地は貸し手が少ないのが現状のため農地が点在。</li> <li>有機栽培面積を拡大し、顧客に安心して満足できる商品の提供。</li> </ul>	

障害者特例子会社の農業参入と親会社での販路活用（（株）ウジエクリーンサービス）宮城県登米市

障害者就労支援の促進に向けた取組

1 概要

① 取組の経緯

- （株）ウジエクリーンサービス（登米市）は平成18年に宮城県で4社目の障害者特例子会社に認定され障害者を雇用。
- 清掃部門（親会社のウジエスーパー店舗清掃）からスタートし、平成20年にはスーパーから出る食品残渣の肥料化事業部門を開始。平成23年には農業生産部門の「無限てるてるファーム」を開設。自社製造の有機質肥料を使用し、自社管理の農地で米、野菜、カモミールを生産。現在、12名の障害者が各部門で働いている。
- 自社社員を県内初の第2号ジョブコーチとして育成し、雇用している障害者に対し、各部門への仕事の割り振りや指示、生活相談等を専門的に行っている。

② 取組の特徴

- 企業活動として、障害者雇用と自立支援を取入れ地域や社会に貢献。
- 食品循環資源の再生利用の取組実施。
- （株）ウジエクリーンサービスは、生産した米を用いた日本酒、味噌を地域のメーカーに製造委託し、親会社のスーパーでの販売や自社でネット販売を行う等農商工連携の取組を実施。
- カモミールは全量カミツレ研究所へ販売。
- 販売先（親会社のスーパー）が確保されていることが強み。



（異業種・各省連携等）

- ウジエスーパー
- 石越酒造株式会社
- ヤマカノ醸造株式会社
- カミツレ研究所

（宮城県登米市）



2 今後の展望と課題

- 自社において、6次産業化による新商品開発を進めていきたい。
- 障害者の適性に合った仕事づくりを進めていくとともに、収益の向上を図る。

農園経営を通じた障害者雇用促進（NPO法人つくばアグリチャレンジ）茨城県つくば市

障害者就労支援の促進に向けた取組

1 概要

① 取組の経緯

- NPO法人つくばアグリチャレンジは、農業を通じた障害者の働く場の確保と農業の担い手不足の解消を目的として平成23年に設立。
- 障害者自立支援法上の就労支援施設（「就労継続支援B型事業」「就労移行支援事業」）として運営。現在、登録されている障害者は約70名。
- 平成23年つくば市内の農地1.6haを借りてスタートし、現在は3ha規模。

② 取組の特徴

- 地域の農業者が農業技術を指導し、障害者の特性に合わせた作業を用意し、全員が役割を持って仕事ができる環境を創出。
- 露地栽培とハウス栽培を効率的に組み合わせることで、通年作業を確保。
- 事業内容は農産物生産（ベビーリーフ、ミニトマト等）のほかに、安定した収入を得るため農業体験農園の運営、近隣農家の作業受託、カフェの運営、農産物加工等を実施。



（異業種・各省連携等）

- 近隣病院
- 養護学校ハローワーク等

（茨城県つくば市）



2 今後の展望と課題

- 地域外の障害者が通って来て、農業に従事することについて、近隣住民の理解の醸成が重要。
- 平成27年度に農業法人を設立し、障害者の正規雇用を開始予定。

## 観光農園での農作業を通じた障害者就労支援（ベンズファーム）東京都小平市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 農園主は、来訪者自身が花、果実を摘み取り、作物の様子などを体験して知って欲しいと考え、平成15年に約1haの観光農園ベンズファームを開設し、都市住民へ憩いの場を提供。
- また、当農園は、平成12年から東京都障害者等社会適用訓練事業により、職業訓練所として受託しており、現在訓練生5名を受入れ。
- 訓練生は、都保健所からの紹介により当農園で3年間訓練生として、農作業一般（は種から肥培管理、収穫まで）を行い、訓練期間終了後は、都保健所が就労先を斡旋している。

##### ② 取組の特徴

- 訓練生は、団体の視察等の際に、農園の概要を説明することにより、自信と誇りをもって従事。
- また、当農園で生産したブルーベリーは、他の障害者職業訓練所でジャムに加工し、当農園内で販売。



（異業種・各省連携等）

- 東京都（産業労働局）

#### 2 今後の展望と課題

- 当農園は、障害者職業訓練所として、3年間の訓練期間となっている。訓練後も引き続き全ての人を雇いたいが、現実には経営上、その一部の人しか継続雇用ができない状況（当農園では現在3名雇用）となっており、訓練後の雇用への支援が課題。

（東京都小平市）



## 幅広い分野の関係者が参画した研究会活動による障害者雇用の拡大 （浜松市ユニバーサル農業研究会）静岡県浜松市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 平成16年の園芸福祉全国大会が浜松市で開催されたのを契機に、障害者等の農業への参画を推進するため、幅広い分野の関係者が情報交換を行う研究会「浜松市ユニバーサル農業研究会」が平成17年に発足（会員数15）。事務局は浜松市。

##### ② 取組の特徴

- 平成17年から1～2ヶ月に1回程度の勉強会を行い、専門性を活かしながら共通認識を深めるほか、ほ場作業を視察して作業工程や指示等の改善を検討。
- 作業療法士、機械メーカーとともに、障害者向けの農機具の開発も実施。
- 現在、市内の障害者受入農家数は約20戸となっており、こうした取組が、農業法人による障害者雇用の拡大（障害者雇用数18名）、農作業を請け負う特例子会社の設立（同16名）などに寄与。

#### 2 今後の展望と課題

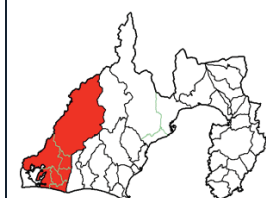
- 障害者による農産物の加工、販売等就業機会の拡大。
- 農作業の研修ほ場を設置し、障害者の基礎的な農業技術の習得、障害者に関わる上での的確な情報伝達の方法等の研修の実施。
- 障害者と農業者、企業、福祉施設それぞれを効果的にマッチングさせるための事業を実施。
- 障害者受入農家は、技術指導、作業管理等のノウハウの習得や障害者とのコミュニケーションの確保が必要であり、これらを支援する人材の育成・活用への助成が必要。
- 各種支援制度の活用等にあたり、福祉側と農業側の一層の連携が必要。



（異業種・各省連携等）



- 農業者
- 福祉事業者
- 特例子会社
- 社会保険労務士、大学（作業療法士）
- 静岡県西部農林事務所
- 浜松市（農業担当部局、福祉担当部局、労政担当部局）

（静岡県浜松市）





## 地域の「絆」を活かした障害者就農の推進（NPO法人UNE）新潟県長岡市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 前身の「ユニバーサル農園芸えちご」を経て、平成23年4月、NPO法人として認定されるとともに、耕作放棄地や空き家が目立つ一之貝集落に地域活動支援センター「UNEHAUS」（障害者福祉サービス拠点）を運営、障害者と地域の高齢者と協働して水田1.2ha、畑0.8haの他、加工・販売を手掛ける。</li> <li>• 平成25年2月、NPO法人として新潟県内初の認定農業者に認定。</li> <li>• 1日平均7～8人の障害者の日中支援活動として農作業の訓練を実施。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• UNEHAUSを拠点に障害者と地域住民との交流を図るため、農業（米、野菜、花の栽培）のほか農家レストランを経営、各種イベント等を開催。</li> <li>• 平成24年1月に地元の中小企業が創設した特例子会社（株）夢ガーデン（将来的には農業への進出を目標にしている）と連携し、障害者による堆肥の製造・販売、切り花の生産、ガーデニング等の作業に取り組んでいる。</li> </ul>	 <p>(写真：「UNEHAUS」に視察に訪れた長岡市のみなさん)</p> <p>(異業種・各省連携等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• (株) 夢ガーデン</li> </ul>
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 農業ジョブトレーナー等の人材育成、障害者受け入れに対する地域住民の理解の醸成、都市住民の受け入れ体制の整備等を積極的に取り組み、将来的には特例子会社の誘致や、障害者就労支援施設の立上げを目指す。</li> <li>• 「農・障(障害者)・高(高齢者)」の連携と若者及び地域資源を活用し、地域の課題解決を進めながら障害者の就労を推進する地域のコーディネーターが必要。</li> </ul>	<p>(新潟県長岡市)</p> 

## きのこ生産による障害者の就労機会の創出（社会福祉法人めひの野園）富山県富山市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会福祉法人めひの野園は、当時、社会的にあまり理解が得られていなかった自閉症者の支援施設として昭和56年に設立。翌年、社会福祉法人として認可。</li> <li>• 平成11年から購入菌床によるしいたけ栽培を実施、平成17年から菌床からの一貫生産を実施し、障害者の就労機会の創出、維持、自立を目指す。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 年間12万床でしいたけを栽培、14万床の菌床を販売。</li> <li>• 職員12名及び施設利用者40名で生産（平成25年8月現在）。</li> <li>• 生長過程を目で確認できるしいたけ栽培は、コミュニケーションが苦手でも目に見えることへの適応能力が優れる自閉症者に最適。</li> <li>• 生きがいの創出に加え、収入の面からも施設利用者の生活の維持に貢献。</li> </ul>	 <p>(異業種・各種連携等)</p>
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安定した事業形態を維持することにより将来にわたって利用者とその家族の生活をサポートするとともに、菌床の販売も手がけることで地域の菌床しいたけ産業にも貢献。</li> <li>• 自閉症者が集中して行うことができる作業の適性は、短期間で判断することが難しいため、長時間かけて適性を判断することが必要。</li> </ul>	<p>(富山県富山市)</p> 

## 農業生産を通じて障害者就労を支援（社会福祉法人 南陽園）石川県小松市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

•社会福祉法人 南陽園（石川県加賀市。昭和49年9月設立）は、障害者の就労支援を目的として、植物工場（「菜っぱちゃん」）及びこれに併設するレストラン（「しあわせ食彩ゴッツオーネ」）を平成23年1月に小松市内でオープン。

##### ② 取組の特徴

•本施設では、50名（全体従業員数70名）の障害者を雇用（うち雇用契約を結んだ就労継続支援事業A型が12名で、時給は700円）し、これを5つのグループに分けて、植物工場での4種類のレタスの栽培、レストランでの開店準備や厨房洗い場の清掃、パン・クッキー作りや野菜の下処理等の業務を行っている。  
•同法人では上記のほか、老人ホーム（シーツの取替）等への人材派遣等の就労支援を行っている。



（異業種・各省連携等）

- 厚生労働省補助事業を活用し、植物工場及びレストランを整備。
- 小松市の補助事業を活用してレストランの厨房機器を整備。

#### 2 今後の展望と課題

•小松市やハローワークから障害者の求職に係る問い合わせが多く、当法人も業務を拡張し、これらを多く受け入れたい意向。このため、現在、近隣に畑を借り、障害者を雇用して露地野菜を栽培し、レストランの食材としての活用を検討中。  
•障害者雇用に際して、就労場所・賃金を確保するため業務拡張等を行うが、この際、行政による、授産施設の整備等ハード面に対する支援のほか、例えば、上記展望の場合、農地の斡旋、栽培指導員の派遣等といった、ソフト面の支援も必要。

（石川県小松市）



## 障害者雇用による農業経営（白山若葉(株)）石川県白山市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

•白山山麓地域の農山村資源を活用した6次産業化を実現し、農業を通じた障害者の雇用（就労支援）を図ることを目的に、平成24年3月、農業者4名及び社会福祉法人関係者2名により、農業生産法人白山若葉(株)を設立。  
•現在、施設入所者30名、通所者12名を農業及び加工部門で雇用。  
<栽培面積>クレソン21a、エゴマ・ビーツ・紫イモ等15a、そば若葉0.7a等  
<商品>自社農産物を練り込んだ米粉パスタ、そば若葉乾麺等

##### ② 取組の特徴

•比較的栽培しやすく流通量の少ない農産物を生産。  
•機能性の高い農産物を少量多品種生産し、販売面で優位性を発揮。  
•障害の程度に応じて作業の担当を設定し、生産効率及び安全を確保。



（異業種・各省連携等）

- 社会福祉法人
- 鳥越福祉会

#### 2 今後の展望と課題

•機能性を活かした加工品開発を継続し、差別化を図った商品の品揃えを目指す。  
•自社農産物を活用したレストランを開設する（3～4年後目途）。  
•年間を通じた、安定した就労の場を確保すべく、加工・販売部門の拡充を図る中で、農林漁業成長化ファンドの活用も検討する。  
•積雪地帯では冬場の就労確保が厳しく、「正社員契約、通年雇用」を要件とする農水省の雇用助成金を受け取ることが出来ない。  
•加工品の機能性、効能を表示する際の縛りが厳しい。

（石川県白山市）



## 作業が安全な植物工場での障害者就農の推進（(株)アクアファーム）福井県越前市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 平成24年8月に、障害者の知識及び能力の向上に必要な訓練を行うため（株）アクアファーム（構成員15名）を設立。
- 同年11月就労継続支援A型事業所として、福井県から認定。
- 平成25年4月に県事業を活用した植物工場（平屋建て、延べ床面積110㎡）が落成。

##### ② 取組の特徴

- 太陽光や外気を遮断した屋内で、LED（発光ダイオード）を使いレタス（2種類）を栽培。10代から60代の知的障害者5人、身体障害者2人、精神障害者3人が社員として就労。
- 植物工場での作業が困難な障害者は、社会福祉法人で施設外就労として働いている。
- 植物工場での作業は一般の農作業に比べ安全。障害者の作業環境に配慮し、室温は常時23℃に設定し、作業時は全員が酸素濃度計を携帯するなど工夫。



（写真：植物工場内での作業の様子）

（異業種・各省連携等）

- 社会福祉法人

（福井県越前市）



#### 2 今後の展望と課題

- 植物工場の強みである無菌に近い状態での生産等を前面に出し販路の拡大を図る。
- 一層の栽培技術の習得が必要。
- 植物工場の強み等を活かした商品の差別化と販路の開拓が必要。

## 市民参画型の就労支援（NPO法人小さな種・こころ）福井県鯖江市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 平成17年3月に「NPO法人さばえNPOサポート」がノーマライゼーションの啓発と地域の食文化の継承を掲げてコミュニティ・カフェ「こころ」をオープン。その後、NPOサポート総会で法人格を取得後の独立が承認され、平成23年10月に「NPO法人小さな種・こころ」（構成員40名（障害者サポート20名、地域地産地消グループ20名））として設立の運びとなった。

##### ② 取組の特徴

- 企画並びに運営のほとんどはボランティアの協力により行われている。
- 鯖江市とパートナーシップ協定を締結し、①公共施設の空きスペースの使用料を市が1/2補助（café&lunchこころを営業）、②耕作放棄地を市が斡旋（こころファーム20aを経営）③高校生を対象とした食育の実践等の共同事業に取り組む。
- 食品メーカーと協働でこころファームで生産したトマトをジャムにする等の6次産業化（Creation factory こころ）の取組を進めている。



（写真：NPO法人こころ親睦会の様子）

（異業種・各省連携等）

- 鯖江市市民協働課

（福井県鯖江市）



#### 2 今後の展望と課題

- 6次産業化の中で更に付加価値の高い製品の開発を目指す。
- チャレンジド（ハンディキャップを持ちながら社会参画している人達）の雇用の場として、地域の人々の幅広い参画が得られるように取り組んでいく。
- 当面は経営基盤の安定が課題、特に責任の重い仕事をボランティアとして担う役員には、最低限の必要経費を支払う等の対応が急務。

## 福祉施設における野菜の生産を通じた産学連携の推進（WSBグループ）岐阜県山県市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- (有)山県ファームの前身である(株)フォス（ワサビ栽培）において、岐阜聾学校より生徒の受け入れを要請され正社員として3名を雇用。
- 障害者雇用を拡大するため、障害者就労継続支援A型事業所として、平成20年に(株)WSBバイオ（しいたけ、わさび苗）を、平成22年に(株)WSB食品（露地野菜、加工）を設立。※WSBはワサビ（wasabi）の略

##### ② 取組の特徴

- 遊休農地を借入（利用権設定）し、障害者を主体とした農作物の栽培・加工及び販売を実施。（WSBグループでの障害者雇用数（平成25年7月現在）：42名）
- 平成23年12月、岐阜都ホテル、岐阜大学及びWSBグループとの間で野菜の供給に関して提携し、岐阜都ホテルは、岐阜大学の農業技術指導のもとにWSBグループが生産した野菜を使用した特別コースを季節ごとに提供。
- 平成24年7月からは、岐阜大学が品種改良したアマランサス（商標登録名：仙寿菜）を栽培し、岐阜都ホテルと連携した新商品（ジュース等加工食品）を開発、販売中。



仙寿菜（せんじゅさい）

（異業種・各省連携等）

- 岐阜都ホテル
- 岐阜大学
- WSBグループ  
（有）山県ファーム  
（株）WSBバイオ  
（株）WSB食品

（岐阜県山県市）



#### 2 今後の展望と課題

- 障害者に農地や農機具を貸し出し、仙寿菜を栽培してもらい、販路はWSBグループが確保することにより、月に8～9万円の収入を目指す。
- 農福連携を推進するために設立（平成24年5月）した（一社）農福就労支援ネットワークの全国の会員を核として、障害者による仙寿菜の栽培を拡大。
- 障害者の一般就労先として、農業関係の企業が少ない。

## 農業・福祉・教育が連携した障害者の就労環境の構築（名張市障害者アグリ雇用推進協議会）三重県名張市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 障害者の就労対策の一環として、農業分野における障害者の就労を推進するため、農業団体、福祉団体、特別支援学校及び行政等の関係者を構成員とする「名張市障害者アグリ雇用推進協議会」を平成21年2月に設立。

##### ② 取組の特徴

- 農業就労体験実習（136名）や協力事業者によるモデル雇用事業（1名）の実施、障害者アグリ就労推進研修会の開催、一般就労後の定着支援等の取組を実施。
- 農業分野で障害者が就労する際に、受入農家及び就労する障害者等関係者に必要な支援者として、「農業ジョブトレーナー」を養成（平成24年度登録者数：41名）。



支援者のスキルアップ

（異業種・各省連携等）

- 名張市
- 伊賀圏域障がい者就業生活支援センター  
ジョブサポート ハオ
- 特別支援学校伊賀つばさ学園
- 伊賀南部農業協同組合
- 農業経営者クラブ

（三重県名張市）



#### 2 今後の展望と課題

- 農業関係者及び障害者を含む福祉関係者相互の理解を深め、障害者の農業就労を推進することにより、心身の健康や機能回復を図り、障害者の自立を促進するとともに、障害者を新たな担い手と捉え、農業活性化につなげていく。
- 受入農家における、通年での障害者の雇用を可能にするための農作業の確保と体制整備への支援が課題。一般就労として受け入れる場合の支援者の確保が課題（経費等）。



## 特例子会社による障害者就労の促進（ハートランド（株））大阪府泉南市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- ハートランド（株）はコクヨ（株）の子会社として平成18年12月設立、翌19年1月農業生産法人として農地の権利を取得、20年3月特例子会社認定。
- 農地4,200㎡（うちハウス2,920㎡）において水耕栽培によりサラダほうれん草、レタス、軟弱野菜を生産。
- 社員15名のうち障害者8名（知的障害者7名、精神障害者1名）このほか企業内授産として約15名／日が就労。

##### ② 取組の特徴

- 日本で初めての「特例子会社による農業生産法人」。
- 地域の障害者の作業所と連携し障害者の働く場を提供。
- 生産している「サラダほうれん草」のブランド化に成功。
- 需給変動に対応し、生産の平準化を目的とした加工食品への取組（六次産業化法による認定）。



（異業種・各省連携等）

- 大阪府
- 泉南市
- 特例子会社制度等（厚生労働省）
- 6次産業化法に基づく総合化事業計画
- 6次産業化支援事業

※コクヨグループでは、障害を持つことは害ではないとの考えから、障害者を表現するとき『障碍者』という字を使用している。なお、本書では「障害者」と一般的な表記にしている。

（大阪府泉南市）



#### 2 今後の展望と課題

- 障害者雇用に取り組む生産者と連携して、ハートランドブランド商品の流通を拡大。
- 加工食品等のグループ内での評価・改善による商品力の向上。
- 農業技術の習得による、生産性の向上、品質の安定化。

## 障害者自らによる無農薬野菜生産・販売（社会福祉法人 すばる・北斗）大阪府寝屋川市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 社会福祉法人すばる・北斗は昭和60年に開設された障害者通所授産施設。平成18年に公設民営化され「すばる・北斗福祉作業所」として運営。
- 平成3年に実験的に農作業を行ったところ、利用者が生き生きと作業する姿が見られたことから、平成4年から作業所近くの休耕地を借りて農作業を行う園芸科を発足。現在、園芸科には13人が在籍。

##### ② 取組の特徴

- 作業所裏の5aの畑で無農薬野菜を栽培。播種・苗作り～収穫までの様々な作業を行い、四季折々の野菜を丹精込めて育て、地域の人や家族に提供。
- 作業は、利用者の障害の程度や作業能力に応じた仕事とする、満足感や喜びを感じられるよう仕事の最初から最後までを自身の手で展開できるよう進めるなどの工夫を行いながら実施。
- 収穫した作物の「販売会」も実施しており、お客さんとのやりとりで「おいしかった」の声を聞くことが大きな励み。

※社会福祉法人 すばる・北斗では、障害者を表現するとき「障がい者」という字を使用している。なお、本書では「障害者」と一般的な表記にしている。



野菜栽培ほ場



野菜の販売

（異業種・各省連携等）

- 寝屋川市（障害者自立支援法による各種対策）
- 寝屋川市立総合センター（毎週水曜日の定期販売）
- 大谷町自治会（法人が主催する夏祭り等に参加）

（大阪府寝屋川市）



#### 2 今後の展望と課題

- 今後とも、無農薬野菜にこだわり、地域の方に、より安全・安心・安価な野菜を提供していきたい意向。
- 一人ひとり毎に道具を工夫するなど作業能力や発達に応じた取組ができるような工夫が不可欠であり、施設の職員が利用者や園芸作業についての十分な理解と見通しをもつことが大切。

## 農業で障害者の自立と地域力向上を目指す取組（NPO法人 どうで）奈良県山添村

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 平成10年、村からの働きかけもあり、村内の有志で精神障害者社会適応訓練事業者として、どうでの会を発足し、障害者の自立支援の取組を開始。
- 障害者の自立支援と農作物や資源を活かした地域力向上を目指して様々な活動を実施しており、平成18年にNPO法人どうでを設立。
- 障害者の自立支援活動では、自ら農作物を作り、付加価値を高める加工や販売に携わることで、作る楽しさ、収入を得る喜びに結びつけ、自立度を高めることを目的として取組。現在、入所者が15名で、通いの利用者が約40名。

##### ② 取組の特徴

- 農作業では、村内の15aの農地で水稲、麦、さといも、たまねぎ、しいたけなどの様々な品目を生産。
- 加工・販売関係では、NPO法人どうでや地元農家が生産した野菜等を使用し、日替わり弁当や米粉パンなどの製造・販売、レストランでの食事提供を行っている。
- 利用者の日々の体調なども注意深くみながら、安全で効率的な作業となるよう、日々の班編成や役割分担などを計画。また、生活レベルや作業能力に応じた賃金の支払いがあり、将来の自立に向けた蓄財を支援。

※NPO法人 どうででは、障害者を表現するとき「障がい者」という字を使用している。  
 なお、本書では「障害者」と一般的な表記にしている。



利用者が作業する野菜畑



移動販売のようす

（異業種・各省連携等）

- 山添村（障害者自立支援法による各種対策・イベント等（野菜販売等）への参画）
- 地元農家（地元産野菜の加工・販売への利用）

（奈良県山添村）



#### 2 今後の展望と課題

- 地元山添村の野菜をPRするためにも、土づくりなどもしっかりと行い、良いものを作ることに努めながら、地域にないアンズなどの新たな品目の生産にも取り組みたい意向。
- 農作業を行う畑等が広がってきたことに加え、鳥獣害の増加もあり、活動の場である農地のメンテナンスを如何に継続していくかが課題。

## 障害者就労支援の促進に向けた取組（NPO法人ドリーム・プラネット）岡山県岡山市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- NPO法人ドリーム・プラネットは平成20年に設立、就労継続支援A型事業所を開設。
- 法人設立以前は、平成7年よりパンジーなどの花壇用苗の栽培・販売を開始し、その後、精神障害者共同作業所などとの交流をきっかけに、平成9年から障害者雇用を開始。
- 現在、障害者22名を雇用し、苗類生産の一部作業を受託。知的障害者は、土作り、ポットへの土入れ等。精神障害者は、花の苗を販売先へ配送等。
- 職員数：29名（うち雇用障害者数：知的6名、精神16名）

##### ② 取組の特徴

- 社員やパート職員（健常者）とも連携を取りながら、障害者の体調にも柔軟に対応できるように、無理のない勤務方式を採用。
- 栽培した花苗等のホームセンターへの搬送及び出荷作業は、精神障害者2名体制（運転手と助手）で実施。



（異業種・各省連携等）

（岡山県岡山市）



#### 2 今後の展望と課題

今後も安定的に障害者を雇用するために、

- 障害者に仕事のノルマを与えない。
- 就労に関しては1人ではなく複数名の雇用に配慮し、障害者の不安を抑える。
- 雇用した障害者に関わる家族、病院、作業所、保健センター等との定期的な連携に留意して事業を実施。

園芸活用を通じた障害者の就労支援と生きがいづくりの支援（NPO法人グローバル園芸療法センター）  
 熊本県水俣市

障害者就労支援の促進に向けた取組

1 概要

① 取組の経緯

- NPO法人グローバル園芸療法センターは、障害者の就労支援の場として緑と福祉の架け橋となる園芸療法を行うとともに、障害者や高齢者・子ども達の心身の健康維持及び職業訓練を受けている人の社会参加の促進を図ることを目的として平成15年5月に設立。
- 園芸療法活動を行うため、ローズガーデン(20a)の管理及び園芸生産事業(ハウス1棟3a)等を実施し、19名(平成25年5月現在)の障害者が利用。

② 取組の特徴

- 季節の草花やいちごの育成、バラの講習会、イベントでの展示販売など園芸活動を通じた生きがいづくりの支援を実施。
- 地域に点在する小規模ブルーベリー農家、調理師、栄養士などが参加するネットワークを構築し、ブルーベリーの安定的な生産・供給を目的としてデザート、お菓子等10種類の試作品を開発し、ジュースとジャムを商品化。



(異業種・各省連携等)

- 県地域振興局
- ハローワーク
- 市町
- 8か所の福祉施設
- 4か所の支援センター
- 支援学校

2 今後の展望と課題

- 現在地域の耕作放棄地(90a)を農家から借用し整備中。薬草類や地域の野菜を生産することを検討中。
- 水俣・芦北地域では、障害があることを理由に厳しい求職活動を続けている方が多いことから、関係機関を構成員とする障害者就労支援ネットワークを立ち上げ、広く企業に理解してもらうための取組・活動を実施。
- 就農へつながるステップとして、各福祉施設が障害者(数名程度)を受入れ、農作業等の支援をしていくことが課題。また、農業法人等との連携、ネットワーク化が必要。

(熊本県水俣市)



農作業を通じた交流、福祉の里づくり（NPO法人丸山ハイランド）熊本県山都町

障害者就労支援の促進に向けた取組

1 概要

① 取組の経緯

- NPO法人丸山ハイランドは平成18年に設立(平成25年4月現在の会員350名)。平成13年頃から農作業を通じた知的障害者の自立支援、一般のボランティア参加機会や憩いの場の提供を目的として活動。
- 古民家を改築した農家レストラン「ふれ愛館」を拠点に、知的障害者支援としての農業生産活動、農作業体験受入、各種交流イベント等を展開。

② 取組の特徴

- 農家レストラン「ふれ愛館」を運営し、知的障害者を雇用(就業訓練)。
- 休耕地(約2ha)での農作業、農産加工を通じた知的障害者の自立支援。
- 小中学生や一般を含めた農作業体験、コンサートなど交流イベントの開催。



知的障害者の方々と作業風景

(異業種・各省連携等)

- 地元住民
- 婦人会
- 障害者デイサービス施設
- JA(配食サービス)ほか

2 今後の展望と課題

- 療法的園芸は「農」との関わりの中で癒し、やすらぎ、達成感などを得るもので、知的障害者だけではなく広く一般にも通じるもの。国内ではまだまだ浸透していないが、活動の幅を拡げ、熊本発で広めていきたい。
- リタイヤ世代の健康増進や生きがいづくりに「農」を活かしたいと考えており、丸山ハイランドとそういう人達を結ぶ市内(熊本市)拠点をづくりたい。
- 活動経費は会費や生産した農産物の販売等が原資となっているが、現状は専従雇用(1名でも)を安定的に雇えない状況(農場管理やレストラン運営には地元住民らのボランティア的な部分が大きい)。継続的な雇用ができるよう経営面で支えてくれる制度が必要。

(熊本県山都町)



## 農作業や食を通じて福祉、健康づくりに貢献（社会医療法人ましき会）熊本県益城町

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

- 社会医療法人ましき会（益城病院）では、障害者自立支援法に基づく就労継続支援事業として、障害者の社会復帰・社会参加と食を通じた地域の健康づくりを目的に、平成18年11月に「健味健食園」を開設。病院に隣接する健康農園、レストラン、パン工房の3施設を障害者（30～40人）の就労訓練の場として運営。

##### ② 取組の特徴

- 健康農園（1.7ha）、レストラン、パン工房で障害者の就労訓練を実施。
- 障害者は、農作業やグラウンドゴルフ場の管理を通して地域住民と交流。
- レストランやパン工房の食材は、健康農園でできた作物や近隣農家が生産した有機野菜等も活用し、地域住民との交流・連携を図っている。



健康農園での農作業（稲刈り体験）

（異業種・各省連携等）

- 地元農家（近隣）
- 地域活動支援センター
- J Aほか

#### 2 今後の展望と課題

- 健味健食園は、患者さんの社会復帰・自立に向けて、患者さんと共に前進。
- さらに、食の安全とおいしくて体にやさしい食事の提供を通じて、地域の健康づくりに貢献するとともに、健康的な地域社会の実現を目指す。
- 高齢化、高度情報化社会の中で認知症や精神症状を発症する人の数は増加している。一方で、医療保険収支の逼迫で退院促進や病床数の減床が政策的に求められており、社会復帰、生活の継続のために退院後も何らかの相談・支援が必要な患者は増えていることから、医療政策の変化や自立支援法の見直し等に対応しながら、これからの運営をどのように順応させていくのかが課題。

（熊本県益城町）



## 作物生産・供給を通じた障害者への理解促進と地域活性化（NPO法人初穂）沖縄県沖縄市

### 障害者就労支援の促進に向けた取組

#### 1 概要

##### ① 取組の経緯

設立：平成21年

- 従業員（農業関係）：12名（植物工場に4名、ほ場に8名）、ほ場面積：20a
- 障害者の社会的自立・雇用の促進、生活を支援する事業を行うことで、市民の障害者に対する理解を深め、交流を促進させ、地域と社会の福祉向上・増進に寄与させる目的で事業を展開。
- 農業は、大きな達成感と満足感を障害者に与えることができるため、事業の一つとして取り入れた。また、植物工場の取組は、空き店舗となったスペースの有効活用と、そこで栽培された野菜類の販売・流通を通じた地域の活性化を意図として開始。

##### ② 取組の特徴

- 沖縄市一番街の空き店舗を利用して、植物工場を運営し、安心安全な無農薬野菜（リーフレタス、水菜、小松菜等）を地域に供給するとともに、当該植物工場生産した野菜を一次加工（カット野菜）し、サラダ等の生産販売にも取り組む。また、ほ場で野菜や花（クワンソウ）の露地栽培にも取り組む。



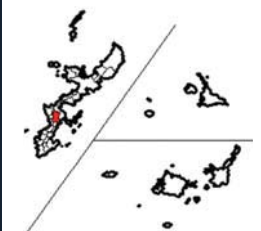
植物工場の様子



ほ場の様子

- （異業種・各省連携等）
- 就労継続支援事業（A型）（厚生労働省）
  - 沖縄振興一括交付金（内閣府）

（沖縄県沖縄市）



#### 2 今後の展望と課題

- 自らが生産した農産物を利用したスムージーの開発など、6次産業化への取り組みを検討中。

障害者就労支援の促進に向けた取組

1 概要

① 取組の経緯

設立：平成22年5月

- 従業員：18名（障害者：15名、職業指導員2名、生活支援員1名）
- 作付作物：サラダほうれん草、レタス、水菜など
- 社会福祉法人みやこ福祉会が、宮古島内に障害者の常勤雇用の場を提供することを目的として、鳥取県などの野菜生産工場へ職員を派遣してノウハウを勉強した後、就労継続支援A型事業所として「野菜ランドみやこ」を建設。
- 野菜工場で生産されるサラダほうれん草やレタス、水菜などの野菜は、島内のスーパー及びリゾートホテルに出荷し、石垣島や本島へも毎日出荷。

② 取組の特徴

- 野菜生産工場の中では、15名の障害者が作業員として、播種・収穫、袋詰めなどのほとんどの作業を行っている。
- 沖縄では夏の収穫がほとんどない葉物野菜を周年生産することで収益を伸ばし、最大15名の雇用を可能にしている。



水菜の下葉取り

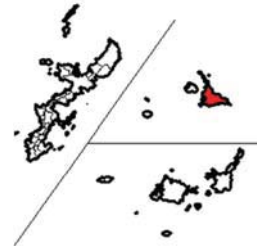


生産施設の様子

（異業種・各省連携等）

・就労継続支援事業（A型）（厚生労働省）

（沖縄県宮古島市）



2 今後の展望と課題

- みやこ福祉会は、障害者の雇用を目的とした施設として、新たにレストランの建設を計画しており、野菜ランドみやこで生産された野菜は、レストランで活用される予定。
- レストランを建設する際の費用の確保が課題。

福祉目的でも利用可能な市民農園、体験農園の整備の取組

+

障害者就労支援

1 概要

① 取組の経緯

- 平成15年に園芸福祉に関わる有志によりNPO京の園芸福祉研究会を設立、平成22年には、農業体験農園「すこやかファームおとわ」を開設、京都市内の園芸福祉士（200人程度）の活動拠点とし、農業の持つ健康増進や癒し機能を活用し、市民農園普及や園芸福祉士の育成を通じた福祉活動を実践。

② 取組の特徴

- 農園で実施されるイベントや農作業を通じて地域住民と障害者との交流機会を提供（農園は一般市民50人ほか、京都市内の障害者福祉施設3団体が利用）。
- 農作業従事による障害者への就業機会を提供。
- 農園で生産した野菜の販売で生じた売上金を障害者の就労手当に充当。
- 園芸福祉士に実践の場を提供。



「すこやかファームおとわ」全景

（異業種・各省連携等）

- すこやかファームおとわ
- ふれあい農園

2 今後の展望と課題

- 園芸福祉士の育成のみならず、園芸福祉士を福祉関係関連施設・団体等に斡旋する活動を展開予定。
- 農業関係者、福祉関係者、教育担当部局等といった各担当分野を超えた官・民ネットワークを構築予定。
- 園芸福祉士の活動先の拡大や、障害者に手当が払える収益性を確保出来る経営の確立、障害者の作業精度のバラツキをカバー出来る作業体系の確立が課題。

（京都府京都市、城陽市、亀岡市）





## 農業法人による幅広い福祉分野との連携（（有）ファーム花茶）北海道千歳市

社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組



+

障害者就労支援



<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>（有）ファーム花茶は、野菜や果樹の生産、旬の素材を使ったアイスクリームの製造・販売、ファームレストランの運営などを家族経営で行う農業生産法人。</li> <li>来訪者には、心身の不自由な方もおられることから、憩いとゆとりの場として、福祉の庭「コロンポロン」をファーム内に新たに設置（平成23年11月）。</li> <li>地域の福祉施設と連携することにより、知的障害者が畑の管理作業や直売所での野菜販売に従事（平成22年から取組を開始）。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「コロンポロン」のスペースでは、子供から高齢者、障害者など誰もが園芸作業や農産物の収穫、動物とのふれ合いなどの体験が可能であり、ガーデンライブや料理教室など様々なイベントも実施。</li> </ul>	 <p>(異業種・各省連携等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>社会福祉法人 千歳いずみ学園</li> </ul>
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>障害者の通年雇用を実現するには、経営基盤の強化や食品加工の取組が必要となるが、家族中心の経営では、各種助成要件の充足も含めて、さらなる対応が難しい。</li> <li>知的障害者の受け入れには、体調管理などの面も含め、試行錯誤をしながら取り組んでおり、きめ細かな支援が必要。</li> </ul>	<p>(北海道千歳市)</p> 

## 医と農の連携によるリハビリりんご園（留萌がんばるかい）北海道増毛町、留萌市



社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組

<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>増毛町の果樹園が高齢化等により廃園に直面する一方、留萌市とその周辺町村では、医師をはじめ医療従事者の人材が不足。</li> <li>「留萌がんばるかい」（市民団体）が事務局となり、廃園寸前であった果樹園を、園芸療法を行うリハビリりんご園（0.5ha）として活用することで医療従事者の人材確保にも貢献。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>農業生産者（パプヤの里）、地域の医療機関、全国の医療系大学や行政と連携して、医療系学生の研修の場としてりんご園を活用。（平成24年度：24名）</li> <li>地域住民と医療実習生の交流を通して地域の魅力をPRし、地域の医療従事者の確保、定住促進に寄与。</li> <li>取組を通して園芸療法が若年認知症等のリハビリにも効果があることを確認。</li> </ul>	 <p>(異業種・各省連携等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>パプヤの里（増毛町果樹園）</li> <li>デイ・ステイケア 医療施設</li> <li>留萌市立病院</li> <li>留萌市</li> <li>札幌医科大学ほか</li> </ul>
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>医療実習を行う学生を広く全国から募るため、同地域の病院やリハビリりんご園で実習を行うための予算確保が必要。</li> <li>平成25年度は保健師1名を確保したが、今後は医師確保に向けた取組が重要。</li> </ul>	<p>(北海道増毛町、留萌市)</p> 

社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組

<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の過疎化・高齢化に歯止めをかけるため、地域住民、自治体やNPOが移住者受入や農産物販売等の取り組みを実施してきたが、さらに、田舎ながらも誰もが安心して快適に暮らせる魅力あふれるまちであるためには、多様な社会的弱者に優しい生活の場をつくることが重要な課題と捉え、事業を実施。</li> <li>平成23年に「農村の癒やしを考える会・八竜」を設立。また、平成23年度から平成24年度にかけて、食と地域の交流促進対策交付金を活用。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>介護高齢者、引きこもり青少年等への農業体験プログラムを開発。</li> <li>引きこもり青少年等を対象にした農業体験プログラムでは、社会復帰のステージとして、農園作業を主軸に実施。</li> <li>プログラム開発にあたっては、老人ホーム、医療法人と連携した体制で実施。</li> </ul>	 <p>農園整備の作業風景</p> <p>(異業種・各省連携等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NPO法人長信田の森</li> <li>NPO法人一里塚</li> </ul> <p>(秋田県三種町)</p> 
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少子高齢化が進み交流が少ない地域で、農業と福祉を結びつけた活動を実施したことにより農を核とした交流が生まれた。</li> <li>活動の継続には、活動資金の確保が必要。</li> </ul>	

社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組

<p>1 概要</p> <p>① 取組の経緯</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉県成田市で建設業を営む(株)島田建設では、農家の空き家や空き部屋をデイサービス施設(3ヶ所、定員各10~20名程度)に改修し、併せて農園を整備(年間利用者延べ12,800名程度)。</li> <li>デイサービス施設を利用する地域の高齢者等要介護者から、「農」に触れあうことができると好評。農園の一部では、車いすでも利用できるよう利用者に配慮したレイズベッド(高床花壇)を設置。</li> <li>同社が中心となり、園芸療法や園芸福祉を活かしたデイサービス事業を推進していくため、NPO法人園芸療法勉強会を平成20年5月に設立。</li> </ul> <p>② 取組の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(株)島田農園では、千葉大学環境健康フィールド科学センターと連携し、園芸療法プログラムを開発中。</li> <li>福祉分野・農業分野の関係者や一般企業を対象に勉強会を月1回程度開催。農園付きデイサービス事業の普及に向け関係者のネットワークづくりを推進。</li> </ul>	 <p>(異業種・各省連携等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>千葉大学環境健康フィールド科学センター</li> <li>NPO法人園芸療法勉強会</li> </ul> <p>(千葉県成田市)</p> 
<p>2 今後の展望と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>園芸療法プログラムの確立とレイズベッド(高床花壇)等の整備により、事業モデルを体系化させ、園芸デイサービスのボランタリーチェーンを目指す。</li> <li>福祉や農業関係者、一般企業を対象に園芸療法勉強会を継続的に開催し、協力者を確保。</li> <li>農家改修や農地整備にかかる費用負担、デイサービス利用者の確保が課題。</li> </ul>	

# 高齢者や障害者に収穫する喜びを提供（NPO法人 <sup>かふか もり</sup> 鹿深の杜）滋賀県甲賀市

## 社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組

### 1 概要

#### ① 取組の経緯 <sup>かふか もり</sup>

- NPO法人鹿深の杜は耕作放棄地の利活用を図り、従来の環境と農業を取り戻すことを目的として、平成19年に設立。
- 耕作放棄地を活用した循環型農業や景観づくりに取り組む中で、水田・畑のオーナー制度の実施と併せ、福祉施設と連携した取組も実施。

#### ② 取組の特徴

- 整備した耕作放棄地のうち、畑オーナーほ場（1区画25㎡）の5区画について、福祉目的に利用することとし、菜の花やダイコンを栽培し、知的障害者施設の利用者に花摘みや収穫作業の場を提供。
- 平成24年からは、甲賀市の「高齢者介護予防ボランティアポイント制度」を活用し、特別養護老人ホームの利用者等が、自然に触れて花や野菜を育て、収穫する喜びを体験できる活動の場を整備して提供。
- 生ゴミ堆肥を使った安心な米づくりを行う「オーナー田」で栽培された米の一部を福祉施設に寄贈。

※ NPO法人 鹿深の杜では、障害者を表現するとき「障がい者」という字を使用している。  
なお、本書では「障害者」と一般的な表記にしている。



施設利用者によるダイコン収穫



ふれ合い農園(畑オーナーほ場)看板

（異業種・各省連携等）

- 特別養護老人ホーム
- 知的障害者施設
- 甲賀市健康福祉部長寿福祉課（高齢者介護予防ボランティアポイント制度等）

（滋賀県甲賀市）



### 2 今後の展望と課題

- 障害者への園芸の場の提供など、法人の実施する取組に対する理解の増進と活動費の確保に向け、生ゴミ堆肥を使った循環型ECO野菜（作物）を栽培し、漬物やドレッシングなど付加価値を高めた加工品の開発と販売に取り組む。
- 障害者等に園芸の場を提供するには、ボランティアスタッフを確保する必要がある、時間的に余裕のあるリタイア組を如何に取り込むかが課題。

# 園芸で生きがいがづくりや介護予防を（NPO法人 たかつき）大阪府高槻市

## 社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組

### 1 概要

#### ① 取組の経緯

- NPO法人たかつきは平成13年設立。高槻市の介護予防施設「街かどデイハウス晴耕雨読舎」を運営するとともに、地域の病院での園芸療法サービスに取り組む。
- 平成19年に高齢者の生きがいがづくりや介護予防に農作業を取り入れた「デイサービスセンター晴耕雨読舎」を開所し、園芸療法、園芸福祉を実践。
- 施設に隣接する5aのほ場を園芸療法の場として整備。1日の定員は20名で、平日に16～18人が園芸療法サービスを利用。

#### ② 取組の特徴

- 高齢者の生きがいがづくりや介護予防に野菜づくりや花づくりを取り入れ、農作業や農環境を通じて得られる喜びや癒しにより日常生活における活動力を向上。
- 利用者の自己選択を最重要視し、車いすのまま負担なく園芸を楽しめるレイズドベッド（高床花壇）の整備などにより、利用者の「やりたい」を形にできるよう支援。
- 10年以上にわたってNPO法人日本園芸福祉普及協会が認定する「初級園芸福祉士」養成講座も実施。



レイズドベッドでのダイコン収穫

（異業種・各省連携等）

- 高槻市健康保険部長寿生きがい課（街かどデイハウス事業）
- 農林水産省（農と医の連携促進事業（平成21年度））
- NPO法人 日本園芸福祉普及協会（初級園芸福祉士講座）

（大阪府高槻市）



### 2 今後の展望と課題

- デイサービスの利用希望者が多く、キャンセル待ちの状態。生活の中で野菜作りや土いじりできるような施設の必要性は強く感じている。今後は、違う場所でも、農園芸を楽しめるデイサービスを展開する意向。
- デイサービスのニーズの高い都市近郊で取り組む場合、土地賃借に係るコストが高いことが問題。また、野外で活動する場合、室内だけの活動に比べてリスクが高く、安全確保のためにスタッフの手厚い配置と教育が不可欠。



## 高齢者への園芸療法の実践（社会医療法人 黎明会 介護老人保健施設 和佐の里）和歌山県日高川町

## 社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組

## 1 概要

## ① 取組の経緯

わ さ

- 介護老人保健施設 和佐の里は平成9年に開設。介護予防・認知症対策に重点をおいて様々な療法に取り組んでおり、開設当初より園芸療法を実施。
- 医療的な助けを必要とする人たちを対象に、園芸活動を通じて心身の状況をより良い方向に導くためのプログラムの一つとして開始。
- 現在、入所者10名、通所13名、個別対応6名を対象に園芸療法を実施。

## ② 取組の特徴

- 活動は、天候に応じて野外（中庭・畑（約8a））や屋内で行い、地域のボランティアからも協力を得て実施。
- 入所者の集団は週2回、通所の集団は週1回、午後からの時間帯で1時間半実施。個別対応は対象者により週1～3回、20分間実施。
- 当施設の園芸療法は、作業療法士や理学療法士と連携し、対象者は園芸療法士または担当セラピストから候補を挙げ、試し参加した後に導入を決定。初期評価を行い、個々に園芸療法計画書を作成し、3か月ごとに再評価を実施。



作業中は近くで指導



キクの挿し木作業

(異業種・各省連携等)

- 社会医療法人黎明会 北出病院（病氣治療等）

(和歌山県日高川町)

## 2 今後の展望と課題

- 介護老人保健施設の役割として在宅復帰に貢献できるように、多様な職種と連携予定。
- ボランティアのなり手が少なく、参加人数が限定的。
- 園芸療法スタッフ1名がプログラムの運用と広大な庭と畑の管理の仕事を並行して行うため、十分に管理が行き届かず。



## 農作業を通じた引きこもりからの自立支援（自立支援組織「グループWA（わ）」）香川県さぬき市

## 社会的弱者に対する支援に農作業を活用している取組

## 1 概要

## ① 取組の経緯

- 引きこもりからの自立支援組織「グループWA（わ）」は、代表者が教員時代の不登校や引きこもりなどの教育カウンセラーの経験を活かし、小学校長を退職後、平成17年4月に設立。活動の場となる「ポレポレ農園」（ポレポレとは、スワヒリ語でのんびり・ゆっくり）を開設し農作業を通じて社会復帰を支援。

## ② 取組の特徴

- 現在の会員は22名。近隣の農家から2.2haの農地を借り受け、約30種類の野菜を栽培。収穫した野菜は、県内の産地直売所等で販売するとともに、近隣の高齢農家が栽培した野菜の代理販売も行い、生活支援の一役を担う。
- 太陽の光を浴び、作物の成長に喜びを感じることで、また一緒に作業をする仲間がいることが大事とし、自立への自信につながることで、社会復帰を支援しており、これまで100名以上が自立・就業等を実現。



(異業種・各省連携等)

## 2 今後の展望と課題

- 現在、法人化に向け準備を行っている。農園での活動は、香川県・高知県で取組を行っているが、自立支援するための訓練施設は少ないため、今後は他の地域でも同様の取組を推進する意向。
- 将来は引きこもりの人だけでなく、障害を持つ人の受入れについても行いたい意向。
- 代表者M氏の後継者育成が課題。

(香川県さぬき市)



**【お問い合わせ先】**

農林水産省 大臣官房政策課 食ビジョン推進室

ダイヤルイン : 03-6738-6120

F A X : 03-3508-4080